

国際コンファレンス アジア市場の統合と金融革新



セッション2：アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

アジアの金融市場における適切な資金供給の仕組みについて： 韓国の経験からの教訓

ジョング・イ

国際弁護士 キム&チャング法律事務所シニア・アドバイザー（前韓国金融委員会（FSC）常任委員）

概要

韓国の中小企業（SME）は全企業数の99.9%を占め、韓国経済にとって非常に重要な存在であるにもかかわらず、中小企業向けの資金調達環境は厳しい状況が続いている。中小企業の資金調達は、銀行と政策金融機関から95%以上を占め、資本市場から調達は極めて少ない。また、中小企業に対する貸出は他の貸出と比べて延滞率が高いため、銀行は中小企業への融資に消極的である。このため他国と比較して韓国では、大企業と中小企業の社債の利回り格差が非常に大きくなっている。

中小企業の資金調達環境を改善するため、韓国政府は広範な政策対応を行っている。それらは次の3つに分類できる：(i) 中小企業向け融資制度の拡充、(ii) 融資制度の利用機会の拡大、(iii) 企業再編。今後も改善すべき点はあるものの、これらの政策によって、ここ数年中小企業の資金調達の困難さは軽減されてきている。

韓国の経験から重要な教訓は、市場の失敗の影響を緩和するには様々な措置を講じる必要があるということである。具体的には、(i) 資金の供給側と需要側の情報の非対称性を低減する、(ii) 市場の失敗が明らかな場合には、明確な制度的枠組みと政策の適切な優先順位付けを行いながら、強固な政策支援を策定する、(iii) 中小企業向けの資本市場を整備する、(iv) 効果的な企業再編手法を導入し、「優良な」中小企業と「問題を抱える」中小企業を選別する。